

清水理葉（獨協医科大学日光医療センター）

ドイツ Erlangen 大学 血管外科研修

Distal bypass workshop に参加し、弘前大学胸部心臓血管外科の福田幾夫先生のご配慮でドイツの Erlangen 大学病院へ臨床研修を経験させていただきました。

2016年12月5日から16日まで、夏休みと有給を使用し2週間滞在しました。

[Erlangen]

ミュンヘンからニュルンベルクまで飛行機を利用し、ニュルンベルク空港からタクシーで Erlangen まで行きました。小さい空港で、Erlangen まで20分の距離でとても便利でした。Erlangen は SEIMENS と Erlangen 大学で成り立っている都市とのことでしたが、緑が多く静かなところでした。

[病棟、病院について]

病院はホテルから5分もかからないところにありました。しかし建物が古く、工事中のため棟から棟に移動するためにいちいち地下までいかないといけなため、何度も迷子になり、その度にいろいろな人にお世話になりました。

ドイツの病院は、日本の病院よりも窓が広く、天井が高い部屋でした。

毎朝7時半に症例の確認を行った後に、教授回診が始まります。教授回診には、医師他、看護師や理学療法士などが参加します。教授が一人一人に話しかけ、傷を確認。熱型や内服などの温度板を見ながら、下級医の先生たちが指示を出していきます。

Lang 教授のほか、上級医4人、下級医4人がおり、大きな手術では Lang 教授、上級医、下級医が一人ずつ入ります。比較的小さな手術(シャントやアンプタなど)は下級医が執刀し、上級医が前立することもありました。

[手術について]

以前1か月間ベルリンの病院に手術見学に行った際に、ドイツ語の手術器具名が全く分からず苦労したため、今回は手術器具名だけはドイツ語を覚えていきました。(それでも病院独特の表現(Erlangen ではピンセットに電気メスを当ててもらうときに、ドイツ語の擬音語を使用していました)などがあり、その度に教えてもらいました。)

手術室には、それぞれ麻酔をかける前室がありました。手術台は Maquet の移動式のもので、前室で麻酔がかかったまま移動ができるものでした。

手術室にも大きな窓があり、外の景色を見ることができます。

手洗いはウォーターレス法でした。

手術はほぼ教授が一人で皮切から皮膚の縫合まで完遂していました。どんなに太った患者

でもマーキングもせずに解剖学的な位置を確認し、さーっと皮下脂肪までメスをおく。止血もほとんどしないままメツツェンですすめると血管がすぐに露出します。剥離は丁寧かつ速く、正確でした。手術の最中や手術間には手術のコツなどを英語で丁寧に教えてくださいました。皮切は日本に比べるとかなり大きいです。全例吻合が終わるとその場で必ず造影を行い、ドレーンを留置し閉創していました。

2週間で私が入った手術は以下の通りです。

月	火	水	木	金
Pop.A-dorsal bypass(rGSV) 生体腎移植	Ao- Bil.FA bypass EVAR (Endurant)	シャント静脈瘤 Subclavian steal syndrome (内頸-鎖骨下動脈バイパス)	鼠径仮性動脈瘤 ストリッピング後の血腫除去 PTA シャント静脈瘤 シャント血栓閉塞 大腿切断	下腿切断 大腿切断 下肢静脈瘤ストリッピング
CEA×2 橈骨動脈閉塞	CEA×2 大腿血管奇形 植皮 シャント静脈瘤	F-P(BK) bypass (rGSV) 大腿切断	シャント PTA シャント静脈瘤 人工血管シャント	SMA解離後の狭窄(Ao-SMA吻合)

Lang 教授にはサッカー観戦やニュルンベルクの観光に連れて行っていただきました。

Lang教授との最初のメールのやりとりで、どの時期に行こうかなと考えていた時に、クリスマスの時期がおすすめとのことで、12月に行くこととなりました。日が短く16時ごろにはあたりは真っ暗。どこもかしこもクリスマスムード一色で、少し歩くといろいろなところにクリスマスマーケットがあり、昼間からグリューワインを片手に話に花を咲かせている人がたくさんいました。

今回は短い期間でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。剥離など自分の今の技術や知識の向上が必要なことを再認識し、これからの診療に役立てたいと思います。

このような機会を与えてくださった弘前大学胸部心臓血管外科 福田幾夫教授に心より感謝申し上げます。

Lang 教授をはじめとする Erlangen の方々、本当にありがとうございました。

